

HP Service Health Reporter

Windows®オペレーティングシステムとLinuxオペレーティングシステム用

ソフトウェアバージョン: 9.40

リリースノート

ドキュメントリリース日: 2015年1月

ソフトウェアリリース日: 2015年1月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2010–2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Adobe®は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。

Microsoft®およびWindows®は、Microsoft Corporationの米国登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別番号が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを使用するには、HP Passportに登録してサインインする必要があります。HP Passport IDを登録するには、次のURLを参照してください。
<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passportのログインページの [New users – please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

次のHP SoftwareサポートオンラインWebサイトをご覧ください。<http://www.hp.com/go/hpsupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアのオンラインサポートでは、セルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート契約の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このWebサイトのURLは <http://h20230.www2.hp.com/so/solutions/index.jsp> です

目次

目次	3
HP Service Health Reporterリリースノート	4
このリリースの新機能	5
インタラクティブインストール手順へのアクセス	5
分散インストール	5
新しいレポート	5
SiteScopeの収集	6
BSM/OMi収集	6
OMi拡張コンテンツパック	6
IBM LPAR	6
トポロジの移行	6
既知の問題と制限事項	7
このリリースで修正された不具合	8
このリリースに含まれているエンハンスメント要求	11
お客様からのご意見をお待ちしております。	13

HP Service Health Reporterリリースノート

Windows®オペレーティングシステムとLinuxオペレーティングシステム用

ソフトウェアバージョン: 9.40

発行日: 2015年1月

このドキュメントは、HP Service Health Reporter (SHR) に対して行われた変更の概要です。以下の情報について、このマニュアルで確認することができます。

[「このリリースの新機能」\(5ページ\)](#)

[「既知の問題と制限事項」\(7ページ\)](#)

[「このリリースで修正された不具合」\(8ページ\)](#)

サポート一覧表

インストールの要件および他の製品との互換性の詳細については、Service Health Reporterサポート一覧表を参照してください。

サポート一覧表には以下の情報が含まれています。

- **要件**
 - オペレーティングシステム
 - データベース
 - Webブラウザおよびプラグイン
- **互換性**
 - 仮想化製品
 - 高可用性製品
 - HPソフトウェアの統合
 - HPソフトウェアの共存

このリリースの新機能

SHRのこのリリースには、次の新機能が含まれています。

インタラクティブインストール手順へのアクセス

SHRインタラクティブインストール手順にアクセスするには、以下を実行します。

1. 製品メディアで、Documentation/en_USディレクトリに移動します。
2. SHR_Interactive_Installation.zipファイルのコンテンツを抽出します。
3. 以下のファイルをダブルクリックします。

SHR_Interactive_Installation .htm

または、SHR_Interactive_Installation.zipファイルを以下の場所からダウンロードします。

<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result/-/facetsearch/document/KM01273124>

分散インストール

SHRコンポーネントを単一のシステムにインストールできます（一般的なインストール）。多数のノードについてレポートを作成する場合に、パフォーマンスを改善するために、異なる複数のコンポーネント（SHRサーバー、SHRデータコレクター、SAP Sybase IQ、およびSAP BusinessObjects）を別々のシステムに分散することができます（カスタムインストール）。

インストール手順については『HP Service Health Reporter Interactive Installation Guide』を参照してください。次に、設定を行う手順について「SHRの設定」および『HP Service Health Reporter Configuration Guide』の以降のセクションを参照します。

新しいレポート

OMi予測レポート: OMiドメインで予測レポートを利用できるようになりました。

可用性レポート: 選択した期間にわたる1時間単位の、事前定義済みのしきい値に基づいたヒートマップとして表示される、以下の可用性メトリックについての新しいレポートが利用可能です。

- Oracleインスタンスの可用性
- Microsoft SQLインスタンスの可用性
- RUMアプリケーションの可用性
- BPMアプリケーションの可用性
- Exchange Serverの可用性
- WebSphereサーバーの可用性
- WebLogicサーバーの可用性

- SMシステムの可用性
- ネットワークノード可用性

システム管理運用レポート:システム管理動作ドメインでリソース使用率の新しいレポートが利用可能になりました。

- ノードリソース
- NRTリソース使用率
- NRTリソース使用率 - 傾向

レポートの詳細情報については、『Handbook of Reports』または『ユーザーオンラインヘルプ』を参照してください。

SiteScopeの収集

SHRはメトリックデータを直接SiteScopeから収集します。SHR管理コンソールで、SiteScopeからのデータ収集についてSHRを設定するための新しい設定ページが利用できるようになりました。

注: SiS CODA ETLは推奨されるデータ収集方法ではなくなりました。SysPerf_SiS_ETLコンテンツパックコンポーネントは廃止されています。SysPerf_SiS_ETLの代わりに、SysPerf_SiS_DBまたはSysPerf_SiS_APIを使用してください。詳細については、『HP Service Health Reporter管理者オンラインヘルプ』を参照してください。

BSM/OMi収集

SHR管理コンソールで、管理データベース、プロファイルデータベース、およびOMiからのデータ収集についてSHRを設定するための新しい設定ページが利用できるようになりました。

OMi拡張コンテンツパック

OMi拡張コンテンツパックには、OMiの属性の拡張セットが含まれています。詳細については、『HP Service Health Reporter管理者オンラインヘルプ』を参照してください。

IBM LPAR

SHRは、BSM 9.23およびそれ以降のバージョンを使用したIBM LPARからのデータ収集をサポートします。IBM LPARはInfra Management PackのBSMで見つかります。

トポロジの移行

新しいTopologyMigrationToolユーティリティにより、これまでHPOMで設定されていたSHRインストールをRTSM (BSMまたはOMi) 環境に移行できるようになります。詳細については、『Configuration Guide』を参照してください。

既知の問題と制限事項

- SHRをLinux上にインストールするときに、クロス起動メニューが表示されない場合は、SAP BusinessObjects Tomcatサーバーを再起動してください。
- **Modify**オプションが失敗すると、インストーラーウィザードは想定通りに機能しない可能性があります。システムの再イメージングを検討して、再びSHRをインストールすることができます。

このリリースで修正された不具合

修正された各不具合の参照番号はChange Request (QCCR) 番号になります。修正された不具合の詳細については、[HPソフトウェアサポートオンライン](#)にアクセスするかHPサポート担当者に直接お問い合わせください。

このセクションでは、このリリースで修正された不具合を列挙します。SHRコンテンツパックについて、記録された修正済み不具合のリストについては、[HP Live Network](#)で入手できる『HP Service Health Reporter Content Pack Release Notes』を参照してください。

タイトル: XCelsius 2008インストールzipファイルがSHR 9.3再リリースメディア上にない (QCCR8D25358).

解決策:「Xcelsius.zip」はSHR 9.40 WindowsおよびLinuxインストールメディアに含まれるようになりました。

タイトル: Linuxインストーラーによって/opt/HP/BSM/Postgres/Mgmtdataへの権限が間違っていて設定されている (QCCR8D25429)

解決策:/opt/HP/BSM/Postgres/Mgmtdataに対する権限が700に変更されました。

タイトル: SHR 9.30インストールウィザード上のスペルミス (QCCR8D25904)

解決策: SHR スプラッシュスクリーンが修正されました。

タイトル: レポート「SM System Resource Outage」内のクエリー「SM Util」がデータを返さない (QCCR8D26832)

解決策: この問題はレポートのプロンプトの新しいセットを導入することで修正されています。

タイトル: ディザスタリカバリ管理データベースのバックアップスクリプトによって、情報のメッセージがエラーとしてExecutorログに表示される。 (QCCR8D26996)

解決策: MgmtSQLExecutorログによって記録されたメッセージは適切に更新されています。

タイトル: soft nofileおよびhard nofileを単一ユーザーアカウントに制限する (QCCR8D27014)

解決策: 制限の設定は、rootおよびSHRユーザー (postgresおよびSHRBOARDMIN) に対するソースのみに限定されるようになりました。

タイトル: ネットワークデータのステージング時に発生するデータベースロック取得のエラー (QCCR8D27093)

解決策: この問題は古いdsi_key_idを保持することで修正されています。

タイトル: BOインストールがインストールログにエラーメッセージを返しているにもかかわらず、インストールがエラーなしで正常に続行する (QCCR8D29970)

解決策: /tmp/HPOvInstaller/HP-SHR_9.40以下にある「BOinstall」ログファイルが適切なメッセージを表示するようになりました。

タイトル:US-ASCII文字セットで使用できない文字はSHR -> uCMDB/RTSM接続で機能しない (QCCR8D30307)

解決策:この問題は対処されています。

タイトル:システム管理レポート「SMエグゼクティブサマリー」に予期しない動作が表示される。 (QCCR8D30405)

説明:

問題1:「サーバーの可用性サマリー」グラフでいくつかの間隔が空の表示になっていますが、データベースに対する「ノード可用性」クエリの実行は正常にデータを返します。同じレポートの他のグラフはデータを正常に表示します。

問題2:「容量使用サマリー」テーブルに「MULTIVALUE」という行が表示されます。

解決策:

解決方法1:「サーバー可用性サマリー」グラフのデータ内のギャップを修正するためにレポートの式が変更されています。

解決方法2:データベース内の重複レコードが原因で、SHRレポートは「MULTIVALUE」警告を表示します。ディメンションライフサイクルマネージャユーティリティを使用してこの問題を修正します。詳細については、『HP Service Health Reporter管理ガイド』の「ディメンションの管理」のセクションを参照してください。

タイトル:shr/collection/impl/DBDomainMapLoaderImpl.java内の不正確なエラーメッセージ (QCCR8D30406)

解決策:

障害時にコレクターの実際のタイプを反映するよう、ログメッセージが更新されました。

タイトル:Windows認証での管理UIからのすべてのDB収集設定についてテスト接続が失敗する (QCCR8D30796)

解決策:

管理UIはWindows認証シナリオの場合でテスト接続を実行するために、RemotePollerユーティリティを使用します。Remote Poller APIがドメインユーザーとして実行されていなかったために、テスト接続が失敗することがありました。この修正の一部として、Windows認証の場合の管理UIにテスト接続の機能が移されています。

タイトル:NPS汎用データベースの収集が設定されたタイムゾーンを無視する。(QCCR8D31116)

解決策:DBコレクターは、管理データベースからのタイムゾーンのダンプ処理に関する問題のため、ファイルからのタイムゾーン情報を無視していました。SHRは完全なタイムゾーンの情報をデータソースファイルに配置するようになりました。

タイトル:OPC_ACT_MESSAGESテーブルからのOM収集が、Oracleデータベースでの解析不能の日付エラーで失敗する (QCCR8D31144)

解決策:この不具合はdateTme形式の問題により生じていましたが、現在は修正されています。

タイトル: GBL_MACHINE_MODELメトリックは収集されるがK_CI_Systemにステージされない
(QCCR8D31168)

解決策: データをGBL MACHINE MODELにロードするようステージルールの変更が行われました。

このリリースに含まれているエンハンスメント要求

各不具合の参照番号はChange Request (QCCR) 番号になります。保留状態のエンハンスメント要求の詳細については、[HP ソフトウェアサポートオンライン](#)にアクセスするかHPサポート担当者に直接お問い合わせください。

タイトル: ポート21411の変更後、プロキシによるInfoViewへのアクセスの設定 (QCCR8D23597)

解決策: SHR 9.40は、デフォルトの管理UIポートの変更後に、レポートのクロス起動を動作するようにするこの機能をサポートしています。

タイトル: トポロジソースとしてRTSMを使用するIBM AIX LPARsのサポートを追加 (QCCR8D26081)

解決策: ETL_SM_VI_LPAR_PAコンポーネントが、IBM AIX LPARトポロジをRTSMからも収集するよう機能強化されており、SHRのRTSMデプロイメントシナリオでもサポートされるようになります。

タイトル: HPPmdbBORebrandパッケージのインストールで、ログを適切に記録するようログファイルを修正する。(QCCR8D26993)

解決策: Linuxでは、HPPmdbBORebrandパッケージが失敗すると、`- /tmp/HPOvInstaller/HP-SHR_9.40/BORebrand.log`のログファイルを参照します

Windowsでは、HPPmdbBORebrandパッケージが失敗すると、「`%PMDb_HOME%\temp\BORebrand.log`」のログファイルを参照します

タイトル: ログファイルの機能強化が必要であり、DB収集に関する問題のトラブルシューティングに役立つツールが作成されなくてはならない。(QCCR8D26998)

解決策: DBコレクターのログが、データ収集中のエラーの場合に詳細なメッセージをログ記録するよう機能強化されています。また、収集JMXコンソールも機能強化されており、DBコレクターのログファイルと同じ詳細を示している通常のログとともに、収集管理MBeanの一部として、各DBデータソースに対するドメインマッピングにノードを示すようになりました。

タイトル: SHRウィンドウのインストールルーチンで、インストールがローカル管理者によって実行されているかチェックする必要がある (QCCR8D27048)

解決策: システムユーザーがローカル管理者かどうかをチェックするための新しい事前チェックが含まれるようになりました。

タイトル: インタフェースで定義されたがテーブルでは使用できない、OMiメトリックのSHR内部データのロード (QCCR8D31610)。

解決策: イベントタイトル、説明およびオブジェクト属性がOMiイベントデータベースから収集され、SHRのイベントディメンションテーブルにロードされるようになっており、OMiコンテンツ用のBusiness Objectsユニバースでのアドホックレポートで使用可能になりました。

タイトル: 欠落しているデータがあるレポートを作成するためにSHRに接続するようDBS/OMiのダンプを作成する (QCCR8D32106)。

解決策: SHR 9.40では、`CrossOprEvent_Domain_Reports_Extended`および`CrossOprEvent_ETL_OMi_Extended`コンテンツパックのコンポーネントは、OMiイベントアドホックレポートの使用事例を可能にするためにOMiイベントデータベースからの属性の拡張セットに取り入れられます。

タイトル: SHRレポートを拡張するためのOOTBでないデータのロード(QCCR8D32107)。

解決策: CrossOprEvent_Domain_Reports_ExtendedおよびCrossOprEvent_ETL_OMi_Extendedコンテンツパックのコンポーネントでは、イベント転送、CMA、注釈などを含んでいる属性の拡張セットを取り扱います。これは、SHR OMiコンテンツでのアドホックレポートの使用事例を可能にするためにSHR 9.40に含まれています。

タイトル: SHRで、ハイパースレッドが有効になっている場合に物理CPU/リソースが割り当てられる状況について明確さが求められる(QCCR8D33962)。

解決策: System Performanceコンテンツは、以下のメトリックをデータモデルに含めるよう更新されており(SHR9.40にデプロイ可能なコンテンツバージョンv9.40.003)、SysPerf_ETL_PerformanceAgent ETLパッケージからソースを取得しています。

物理CPU – GBL_NUM_SOCKET

論理プロセッサ – GBL_NUM_CPU

GBL_CPU_MT_ENABLEDはハイパースレッディングが有効/無効/サポートされていないかどうかを示します。

各物理CPUのコア数 – $\text{gbl_num_cpu}/(\text{gbl_num_socket}*\text{gbl_cpu_num_threads})$

お客様からのご意見をお待ちしております。

このドキュメントについてコメントがある場合は、電子メールで[ドキュメントチームにご連絡ください](#)。このシステムで電子メールクライアントが設定されている場合は、上にあるリンクをクリックすると、表題の行に以下の情報が付いた状態で電子メールウィンドウが開きます。

リリースノート (Service Health Reporter 9.40) に関するフィードバック

電子メールにフィードバックを記入して、送信ボタンをクリックしてください。

使用できる電子メールクライアントがない場合は、上記の情報をWebメールクライアントの新しいメッセージにコピーして、フィードバックをdocfeedback@hp.comに送信してください。